



東京大学名誉教授 / 国際斜面災害研究機構 研究部 学術代表

小長井 一男

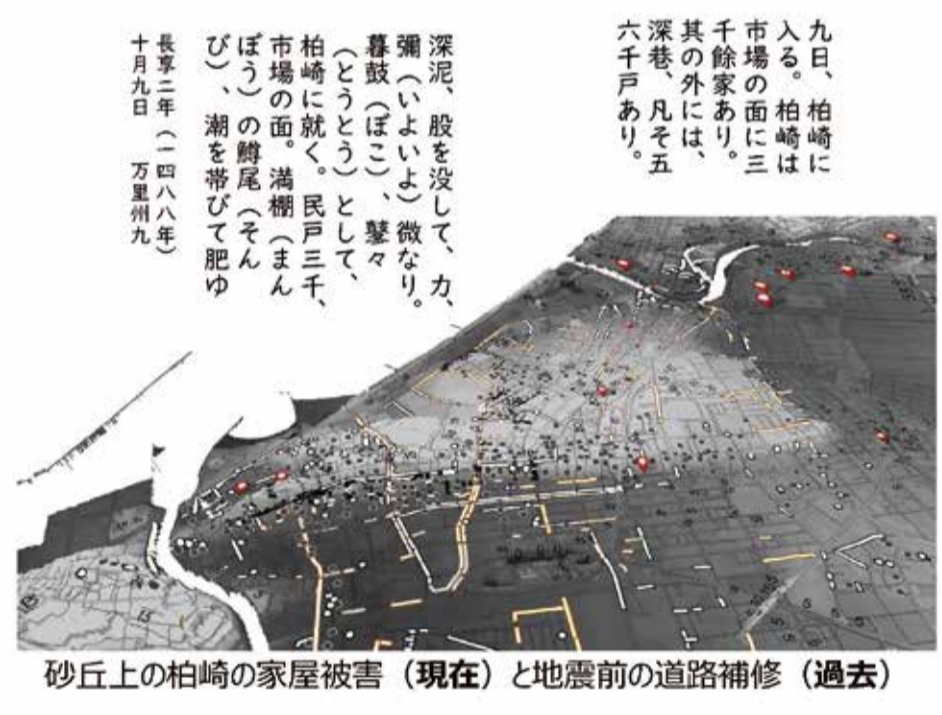
私は目測する能力がないので、正確にはなんともいえませんが、そこは随分(たし)かにその名にふさわしい広さをもっていた畑もあるが、大部分は芦や雑草の繁った荒地と、沼や池や湿地などで占められ、荒れ入り(さんずり)の字)か(入りの字)か路を通じていた山本周五郎「青べか物語」



2022 5/12 (木) 18:00-19:30  
名古屋大学減災館 1 階減災ホール・オンライン

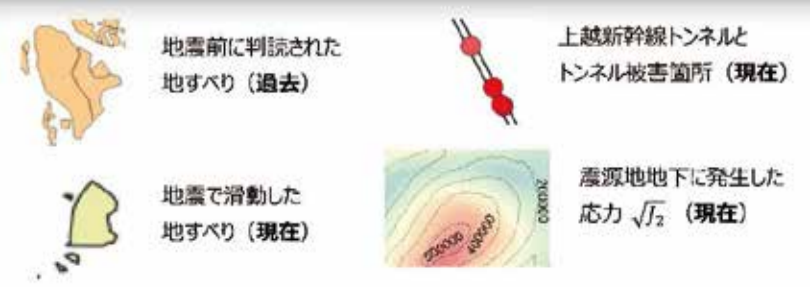
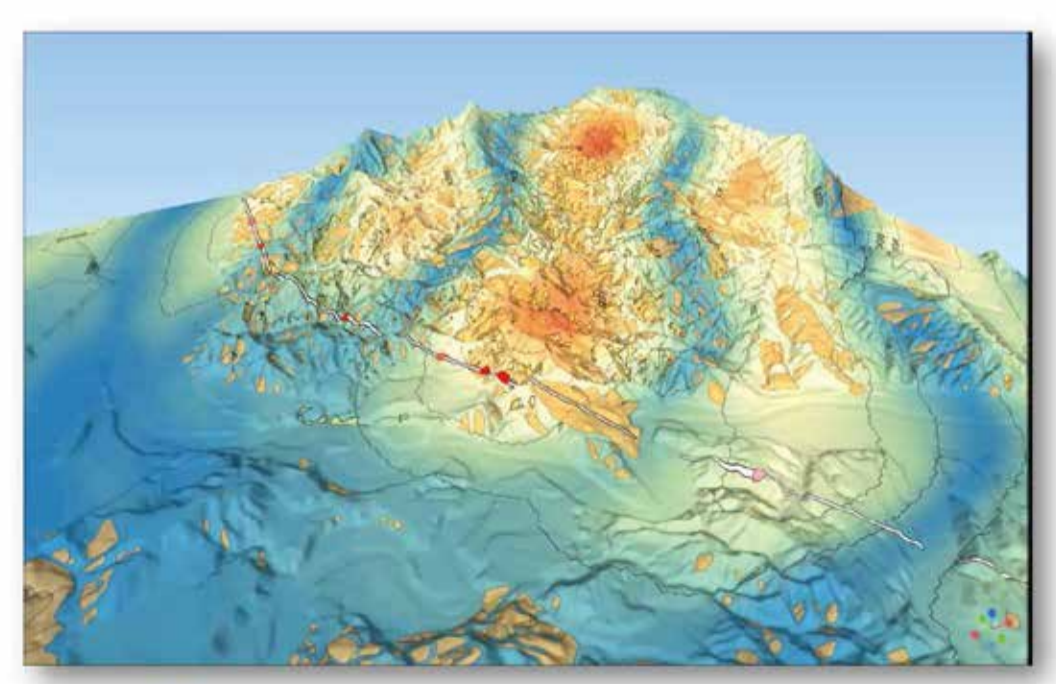
# 地盤に残る地震痕跡の解読と防災戦略への反映

—新書『地盤は悪夢を知っていた』に込めた思い—



砂丘上の柏崎の家屋被害(現在)と地震前の道路補修(過去)

自然災害が一層深刻度を増す今、災害のパターンを知り、上手に折り合いをつけて、私たちの生活環境を整備することが必要です。歴史を遡れば類似の災害が同じ場所で繰り返していたことに思い至るからです。最近の探査技術でどのような地震痕跡が地盤に見えるようになったか、それからどのような教訓を読み解くのか語ります。



重なる現在と過去

- ◆開催形式：現地参加（事前申込制・限定 40 人）  
+ zoom ウィブナー（オンライン）
- ◆参加費：無料
- ◆申込方法：  
下記 URL または QR コードよりお申込みください。  
ご登録いただきましたメールアドレス宛に参加方法をご案内します。
- ◆申込 URL：https://forms.gle/V33gv96digAiWks98
- ◆申込期限：2022 年 5 月 11 日（水）正午まで



主催：名古屋大学減災連携研究センター  
問い合わせ：防災アカデミー担当  
MAIL: inquiry-academy@gensai.nagoya-u.ac.jp